

「あきたe c o らいす」におけるピラクロニル1キロ粒剤の 田植同時散布による雑草防除体系

薄井雄太・三浦恒子・林 雅史*・小笠原 泉**・小林ひとみ***

(*現山本地域振興局農林部・**由利地域振興局農林部・***仙北地域振興局農林部)

1. ねらい

県内の水稻移植栽培では、一発処理除草剤の散布適期を代かきから10日以内としている。しかし、代かきから移植までの日数が長い場合は、ノビエの枯殺限界を過ぎた一発剤散布となり、除草効果が不足し、中・後期剤の追加散布が必要となる。そのため、農薬の使用が10成分回数以下に制限されている「あきたe c o らいす」に適用できない場合がある。「あきたe c o らいす」では、初期剤を移植前使用しないことから、省力的で効果が高く、「あきたe c o らいす」に適用可能な雑草防除技術を確認するため、ピラクロニル1キロ粒剤の田植同時散布に注目し、成分数の少ない一発剤との組み合わせを検討した。

2. 試験方法

1) 場内試験 (水稻関係除草剤適2試験)

- (1) 実施場所：秋田農試水田圃場
- (2) 試験年次：2004年
- (3) 栽培方法：中苗移植栽培
- (4) 移植日：5月10日
- (5) 供試品種：あきたこまち
- (6) 供試薬剤：表1参照
- (7) 雑草調査：草種ごとに抜き取り、風乾後、重量を測定した。

2) 現地試験 (水稻関係除草剤普及適用性試験)

- (1) 実施場所：由利地域、仙北地域
- (2) 試験年次：2013年
- (3) 栽培方法：中苗移植栽培
- (4) 供試品種：あきたこまち
- (5) 供試薬剤：表2参照
- (6) 雑草調査：達観による残草調査

3. 結果及び考察

1) 場内試験

各試験区における除草剤処理時期のノビエ葉齢は、ピラクロニル1キロ粒剤、プレチラクロール1キロ粒剤(比較区)ともに発生前であった。6月1日の調査では、ピラクロニル1キロ粒剤の移植当日散布は除草効果が高く、ノビエなどの対象雑草を中期剤散布まで十分に抑草した。また、イネ

に対する薬害は見られなかった。6月22日の調査においても比較区と同等に除草効果が高かった。ピラクロニル1キロ粒剤は、体系処理の前処理剤として実用性が高いと考えられた(表1)。

2) 現地試験

各実施場所における植代から除草剤処理までの日数は、由利地域で9日、仙北地域では4日であり、除草剤処理時のノビエ葉齢は両場所とも発生前であった。各実施場所とも、ピラクロニル1キロ粒剤の田植同時散布と一発剤の組み合わせは除草効果が高く、普及性が高いと判断された。また、2成分混合の一発剤と組み合わせることで、除草剤の使用を3成分回数に抑えることが可能であった(表2)。

3) 一発剤の散布適期拡大

初期剤の田植同時散布を行った場合、一発剤の散布時期を遅らせることができ、作業日程に余裕を持たせることが可能となる(図1)。

4) 「あきたe c o らいす」への適用

一発剤と中・後期剤の組み合わせでは、選択する除草剤の成分数によって3~8成分の使用となり、「あきたe c o らいす」に適用できない場合がある。1成分の初期剤であるピラクロニル1キロ粒剤と2成分混合の一発剤の計画的な散布は、合計3成分の使用となり、「あきたe c o らいす」に適用できる(図1、表3)。

4. まとめ

水稻移植栽培において、ピラクロニル1キロ粒剤を田植同時散布し、ノビエの発生を遅らせることで、その後に散布する一発処理除草剤の散布適期を拡大できる。また、後次発生雑草も有効に防除でき、中・後期剤の散布の省略が可能となる。

表1 場内試験におけるピラクロニル1キロ粒剤の移植当日散布による除草体系と効果（2004年）

除草体系				除草効果							
処理日	成分名	含有率 (%)	商品名	調査日	草種別雑草残存率(%: 対無除草区残草重量比)						薬害
					ノビエ	カヤツリグサ	コナギ	一年生広葉	ホタルイ	ヘラオモダカ	
5月10日 (移植当日)	ピラクロニル	1.8	ピラクロン/兆 1キロ粒	6月1日 (移植後22日)	10	t	0	t	16	-	無
6月1日 (移植後22日、 イネ5葉)	ベンチオカーブ シメリン MCPB	10.0 1.5 0.8	クミリードSM粒	6月22日 (移植後43日)	0	-	0	0	0	0	無
5月13日 (移植後3日)	プレチラクロール	4.0	(比較)ソルネット 1キロ粒	6月1日 (移植後22日)	2	0	0	0	t	-	無
6月1日 (移植後22日、 イネ5葉)	ベンチオカーブ シメリン MCPB	10.0 1.5 0.8	クミリードSM粒	6月22日 (移植後43日)	0	-	0	0	0	0	無

1) 雑草調査は6月1日(移植後22日)のクミリードSM粒剤散布直前と、6月22日(移植後43日)に行った。
2) 表中のtは1%未満を示す。

表2 現地試験におけるピラクロニル1キロ粒剤の田植同時散布による除草体系と効果（2013年）

実施場所	植代月日 田植月日	処理日	成分名	含有率 (%)	商品名	総合評点
由利	5月7日	5月16日 (田植同時)	ピラクロニル	1.8	ピラクロン/兆1キロ粒	A
	5月16日 10a	5月27日 (移植後11日)	テラルルトリオン フェントラザミド	5.8 5.8	ボデーガード フロアブル	
	5月19日	5月23日 (田植同時)	ピラクロニル	1.8	ピラクロン/兆1キロ粒	
仙北	5月23日 30a	6月3日 (移植後11日)	ピリミスルファン フェントラザミド	0.50 3.0	ヤイバ 1キロ粒	A

1) 雑草調査: 由利; 1回目 5月27日(移植後11日) 2回目 6月26日(移植後41日)
仙北; 1回目 6月3日(移植後11日) 2回目 7月3日(移植後40日)
2) 総合評点(A: 除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない、B: 普及にあたって更に検討する必要がある、-: その他(特別な理由により判定できない))

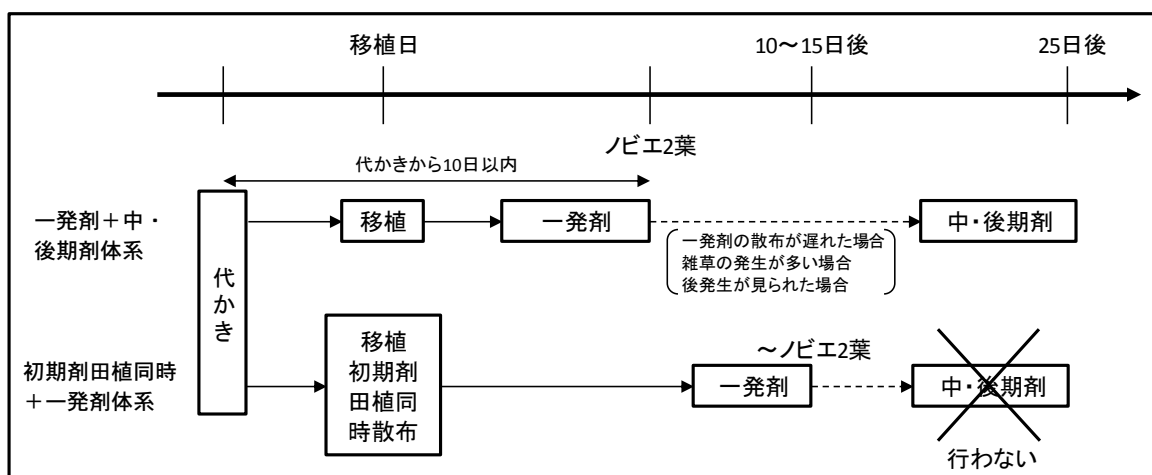


図1 初期剤田植同時 + 一発剤の「あきたecoライス」雑草防除体系

表3 除草剤成分数とあきたecoライスへの適用性

体系	成分数				あきたecoライスへの適用
	初期剤	一発剤	中・後期剤	計	
一発剤 + 中・後期剤	0	2~4	1~4	3~8	できないことがある
初期剤田植同時 + 一発剤	1	2	0	3	可能